

# 使用済み核燃料管理

## 「都市部が責任を」

京大原子炉実験所・小出氏講演



講演後に来場者と懇談する小出裕章さん（右から2人目） 〓 敦賀市桜町

科学者の立場から原発の危険性を訴えてきた京大原子炉実験所の小出裕章助教が13日、敦賀市内で講演した。県内の若者でつくる「福井ピースアクション」などが半年前から準備し、用意した600席が満席となった。

小出さんは、放射能の汚染状況が分かる日本地図を示し、「これまでは放射性管理区域から外に出さぬよう厳しく管理してきたが、今は外の方が汚染されてしまった」と指摘。その上で「こんな事態を許した大人がどう生きるか、考えることが責任」とした。

会場から使用済み核燃料の管理方法を問われると、小出さんは「私にも分からない。人類がいるかどうかを地下に埋めておこなうて、科学が安全を保証できる道理がない」と地層処分の方針を批判。「電気を使ってきた都市部がその責任を負うべきだ」と話した。

実行委メンバーは敦賀市内を回って来場を呼びかけた。村井みきさん(32)は「多くの人が好意的に接してくれた。嶺南の人は真剣に原発について考えていると改めて分かった」と話した。(山田理恵)